

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

クマなく さんぽ



葛飾区

寅さんたちにまた会える場所

葛飾柴又を舞台に、主人公・寅次郎とそれを取り巻く人々が織りなす、人情味溢れる物語。映画『男はつらいよ』は、「寅さん」のキャラクターとともに長く愛されてきた、大人気シリーズ作品です。その『男はつらいよ』の世界にくまなく触れることができるのが、葛飾区にある「葛飾柴又寅さん記念館」です。

『男はつらいよ』の世界を再現

一番人気の展示は、実際の撮影に使用したセットを移設したという団子屋「くるまや」。寅さんが帰ってくる場所であるこのくるまやで、数々の名場面を観ることができます。ほかに、倍賞千恵子さん演じるさくらのナレーションとともに楽しめる可動式のジオラマや、本物の活版印刷機が置かれたタコ社長の「朝日印刷所」、遠近法を用いて精巧に再現された「昭和30年代の帝釈天参道」の街並みなど、こだわりを感じる展示が並びます。

寅さんが、気の向くままに日本のあちこちを旅するという『男はつらいよ』のお約束から、後半の展示は鉄道をテーマにしたものがメインとなっています。柴又の駅舎を再現したコーナーには、地元を走る京成電鉄で昭和の時代に実際に使用されていた物を数多く配しています。寅さんが愛した鈍行列車の車両も、昭和の風景を忠実に再現しています。最近はBSでの再放送などをきっかけに寅さんファンになった若い世代の来館者も増えているといいます。古き良き昭和の時代と寅さんの世界観は、その時代を知らない若い世代にも懐かしさや温かさを感じさせるようです。

下町と寅さんの世界を永遠に

寅さん記念館は、“永遠に未完”という山田洋次監督の意志を反映し、1997年の開館以来3年に一度のリニューアルを重ねてきました。リニューアルは毎回、寅さんの生みの親であり名誉館長を務める山田洋次監督が全面的に関わり、製作・配給の松竹株式会社の協力も得て行われています。ちょうどリニューアルの年にあたる今年度は、これまでよりもかなり大規模な改装が予定されているそうです。来年、新たにパワーアップした「寅さん記念館」に、来場者激増の期待が高まります。

また、山田洋次監督の映画作りへのおもいが込められた山田洋次ミュージアムが併設されています。

寅さんがふらりと帰ってくる
下町の情緒溢れる心の故郷

「葛飾柴又寅さん記念館」

国民的人気映画『男はつらいよ』の世界と、その舞台になっている昭和の下町・葛飾柴又の風景を、さまざまな展示により伝え続ける「葛飾柴又寅さん記念館」。昨今では映画ファンのシニアのみならず若い世代も多く訪れるようになったという、同館の魅力に迫ります。



入口

入り口には看板の文字を取り付ける寅さんが、漢字が苦手なので四苦八苦しています。下には寅さんが落とした雪駄も。



「くるまや」のセット

撮影所から移設した「くるまや」には、黒電話やちゃぶ台など昭和30年代のものがあちこちに。



生まれも育ちも葛飾柴又コーナー

寅さんが少年時代を過ごした昭和30年代の帝釈天の街並みを、遠近法を用いて再現。



寅さんが愛した鈍行列車の旅

寅さんが日本国中旅した鈍行列車のボックスシート。網棚には愛用のトランクも。



なつかしの駅舎

駅員が一枚ずつ切符を切っていた時代の駅舎を再現。舎内には、地元の鉄道会社から寄託されたものがたくさん。



タコ社長の「朝日印刷所」

タコ社長が経営する活版印刷工場を再現。インクのおいまで漂います。

葛飾柴又寅さん記念館 © 松竹樹



夏場の限定イベント

同館のある葛飾区観光文化センター内に、7月から期間限定でスケートリンクが登場予定。葛飾柴又寅さん記念館とともに楽しみたい。

葛飾柴又寅さん記念館・山田洋次ミュージアム

所在地 葛飾区柴又6-22-19 葛飾区観光文化センター内
開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
休館日 第3火曜日(祝祭日の場合は直後の平日)、
12月の第3水・木曜日
入館料 一般¥500、児童・生徒¥300、シルバー・団体¥400
お問合せ 03-3657-3455